

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2017年3月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第582号

2015年の「安保法制論議」で明け暮れた一年が終わり、2016年度は、アメリカ大統領の「常軌を逸した」言動が、世界にさまざまなインパクトを与えている。「トランプ」現象は、「アメリカの問題ではなく、ドイツの「ネオナチ」やフランスの「国民戦線」さらに日本の「日本会議」なども視野に入れる」とりわけ、「先進国」に共通する「病敵」ではないかと思われてくる。

安倍首相が他国の首脳に先立つて、いち早く「新大統領」のもとに「忠誠」を誓いに訪問したのも、単なる「対米従属」以上の意味がありそうである。オバマ大統領からは「靖国参拝」を「不安」視され、なんとなく違和感を感じていたであろう安倍さんが、トランプ大統領の出現を、喜んだのは疑いがない。

日本会議については、新聞の報道や、「日本会議」を表現としていくつもの書籍が売られているが、その割には一般には知られていない。顧みれば、ここ数十年の間に、小泉首相に始まる「靖国参拝」の強行や、教育基本法の改悪、新しい歴史教科書問題、横浜と藤沢の中学では、これが今も使用されている。

中学・高校の「社会科」がなくなり高校では「地歴」科と「公民科」となり(これはほぼ戦前の中等教育の、カリキュラムに等しい)「社会科」という「戦後アメリカによって押し付けられた」と文科省は主張し続けていた。教科はなくなつた。こうした一連の社会の「右傾化」の根底に、「日本会議」や日本会議と合併する前の「日本を守る会」

宗教改革500年をどう考えるか



関東活動センター運営委員

武田 利邦

があったことは今や、はっきりしている。

こうした動きはさらに「マインバー制度」による「国民監視」と「共謀罪」による市民運動などへの「網かけ」として、次第に『1984年』(G・オーウェル)の様相を呈している。2月15日の新聞によれば『1984年』は「旧訳本が1972年からの37年間57万部発行されたのに対

し、新訳本は2009年から今回の増刷にまで、すでに22万5千部」という。

「憲法改悪」はこうした流れの仕上げ段階と思われる。渡辺治は、「1990年代になつて以降、憲法改正論の新たな昂揚が見られる」「90年代に入つてから現在に至るまでに目ぼしいものだけでも、すでに19にも上る憲法改正案が公表されている。現在が、改憲の大きな山場を迎えてい

ることは明らかである。」として「今の改憲の動きは、戦後社会を大きく変えようという改革の一環として起こっている」その背景として「日本資本のグローバル化などを背景とした新たな軍事大国化を指摘している。(『憲法改正の争点』(旬報社))

「ヘイトスピーチ解消法」は5月に成立したが、まだまださまざまな課題を抱えている。2017年は、宗教改革500年であると同時に「日本基督教団戦責告白」50年でもある。宗教改革以降の「プ

ロテスタント教会」の歩みが近代民主主義やその担い手である「自立した個人」を生み出したといわれる。この時代に上述のような「民主主義の危機」が発生していることはなぜか、この機会に「近代化」とその「終わり」におもいをさせてみる必要があるのではないだろうか。宗教改革とそれ以降のプロテスタントイズムの功罪については、ナザレン教団の石田学さん(今年度「神学生交流プログラム」講師)の『日本における宣教的共同体の形成―使徒信条の文脈的注解―』が明快な指摘をしている。日本で「神学」をやるうと考える人は、もちろんそれは「専門的」神学者に任せればよいのではなく、「万人祭司」の原則によれば「キリスト者」を自称する(あるいは自称しない)すべての人が考えるべき課題でもある。

近代社会を生きるすべての人(つまりわれわれ)が(近代の終わりという)この問題を自らの課題として受けとめ、真摯な議論を展開することから「流動する近代」(Z・パウマン)を超える方向を模索すべき時ではないだろうか。(2月末執筆) (農村伝道神学校講師)

関東活動センター

●2016年度 関東フオーラム 宗教対話

「分断の時代における宗教の使命
東八幡キリスト教会の歩みから」

日本バプテスマ連盟東
八幡キリスト教会牧師

奥田 知志さん

2017年2月18日(土)
会場 日本キリスト教会館6階



奥田さんが理事長を務める「抱樸」は、ホームレス支援のNPOで、現在施設は五つある。自立総数は二八〇〇人。六ヶ月の自立プログラムで、自立達成率は九二%におよぶ。活動の基本的スタンスは、「命に意味がある」と、命や存在そのものに意味があるとする普遍主義だ。

「確信犯」というと、一般には「悪いとわかっていながらする犯罪」と思われている。しかし言葉の本来の意味は、「道徳的、宗教的、または政治的信念に基づき、本人が悪いことではないと確信してなされる犯罪」である。

奥田さんは最初に、昨年七月に起こった相模原での事件を例にあげた。この事件の容疑者にとつて、重度の障がい者たちは「生きる意味のない命」であり、殺傷することは彼にとつて「善いこと」であった。今から三四年前、横浜で中学生が野宿者を殺す事件があった。当時、「浮浪者」と呼ばれ、今と同様に、あるいはそれ以上に、社会から捨てられた人々であったが、この人たちを殺すことは、当該の中学生にとつては、捨てられたものを掃除する感覚で、かえって喜ばれ感謝されるくら

いの気持ちであったという。奥田さんがホームレス支援の施設を作ろうとしたとき、地域から反対運動がおこった。その反対理由のひとつは、「生産性の低い施設ではなく、もっと高生産性の施設を」というものであった。この場合は生産性とは経済至上主義における金儲けのことだ。

相模原でも横浜でも、これらの事件の加害者自身が「生きる価値がない」と言われてきたと考えられる。彼ら自身が生産性の圧力を受けてきたのである。

生きる価値があるかないかではなく、命に価値があるという普遍主義こそ大切ではないか。聖書は天地創造の初めに、神が造ったものを見て「それは極めて良かった」と書かれている。イエスの「敵を愛する」という言葉の背景にも、価値観を等しくするものだけを愛するのではないという普遍主義が見られる。

今、キリスト教が衰退をきてきている。その原因は普遍主義を捨てたからではないか。信仰が自分の救い(自己教)に終始し、生き方のステージに行かないからではないか。

いか。

「命に意味がある。」このように言っても、きれいで済まない。現実の厳しさはとても大きい。そのような中で陥る畏がある。ホームレス支援をしていると、自分たちが期待するように自立してくる「良いホームレス」と、自立の難しい「悪いホームレス」という分断が起こってくる。人はいつか変わる。けれどもこれを期待すると分断が始まる。

相模原事件の容疑者に対してわたしたちは何を言うことができるだろうか。「このような犯罪をおこしたのだから、生きる価値がない」と言うのなら、それはこの容疑者がしたことを同じことをわれわれもしていることになる。「それでも生きる」とわれわれは言えるか。この狭間で身を裂くのが宗教者の役割ではないか。キリスト教の普遍の価値をもう一度取り戻さねばならない。

以上、奥田さんの話を要約して紹介した。筆者は一年前に東八幡キリスト教会を訪ねる機会を得た。また教会の前にある「抱樸館」へ立ち寄り、

昼食をとった。「抱樸館」利用者たちの談笑する様子、そこで交わされる挨拶の言葉を見聞きして、とても心温まったことを思い出す。

けれどもこの度、奥田さんの話を聞いて、自分は「抱樸」の活動のほんの表面だけを見てきたと、つくづく思わされている。それはわたし自身が「抱樸」の利用者に「良いホームレス」を期待し、自分が描いた像だけを見て帰ってきたということである。

分断は社会の圧力として存在する。しかしそれと共に、わたしたちのうちに分断を生み出すものが大きく横たわっている。「分断の時代における宗教者の使命」と題された今回の講演で示されたことは、自らのうちにある分断にどう立ち向かい、身を裂くかということだろうか。

(横野朝彦)



関西セミナーハウス活動センター

●2016年度 修学院フォーラム「社会」第3回

パネルディスカッション

「SEALDSが問いかけたもの」
「あなたは どうしますか?」

パネラー

- 同志社大学文学部学生 片岡 希望さん
- 同志社大学神学部学生 野間 陸さん
- 安保関連法に反対するマ とみんなの会@京都 中村あゆ美さん
- 日本キリスト教団宇治教会牧師 早瀬 和人さん

2016年12月3日(土)



2016年8月、参院選を区切りに解散したシールズに、何らかの形で関わってこられた4人のパネラーから、自分史を語りながらの話を聞いた。片岡さんは、福島出身で高校入学前に3・11東日本大震災を経験し、キリスト教主義の高校に入り、「人を愛

すること、個人がそのまま尊ばれる社会を作ることの大切さ」を学んだ。大学で一年間休学して沖縄の辺野古に入つてこの社会をどうするかを考えている。姫路出身の野間さんは片岡さんと同じ高校出身で、3・11を経験し、ショックを受けた。高校のチャペルにある傷ついた十字架を見て、自分は人のために痛みを知るキリスト教徒として生きようと思った。大学に来て、シールズに出会い政治課題に加わるようになった。これからもかかわっていく。「ママの会」の中村さんは、始めは政治のことに関わるのは怖かった。しかし友達との出会いで、政治に関わるようになり、自分の中に閉じこもるの

ではなく「広がりをもった個人」であることの意味を知るようになった。早瀬さんは、牧師として身近な人との関わりからシールズを知り、その後地域の人と運動に関わる様

になった。それぞれ話された。パネラーの豊かな話を受けて、幅広い年齢層の参加者37人が時を忘れて話し合うことができた。

●2016年度「開発教育セミナー」第6回
「イスラームから世界を見る」
～中東とヨーロッパの今～

- 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授 内藤 正典さん

2016年12月10日(土)～11日(日)



今やムスリムがいない地域を探す方が難しく、やがて3人に1人はムスリムという時代になるといふ。それにもかかわらず聞こえてくる情報は、不安や分断をおおるようなものばかりだ。そこで、一日目は、隣人としてムスリムとつきあい、中東地域の研究を続けてきた内藤氏を講師に迎え、イスラームの魅力とは何か、また混迷を極める中東

の現状や、移民を受け入れてきた欧州の状況はどのようなものであったかを学んだ。イスラームの女子教育やシリアの現状などについても、誤解を持って認識していたことに気づかされた。また、欧州各国の異なる移民政策の中で、オランダのような多文化主義に基づいた政策であってもイスラーム圏からの移民が孤立することを

二日目は、欧米が中東で何をし、どんな歴史認識でいるかを批判するだけでなく、足もとの社会についても見つめたいと考え、朝鮮学校の高校授業料無償化をめぐる多様な意見から考えるワークを準備し、日本の中の排外主義的な動きについてもふりかえった。グローバルゼーションの中で、お金やモノの移動は享受しながら、人の移動についてはだけ拒絶するというのではできない。この拒絶によつて生まれている対立をどう克服すればいいのだろうか。「国家よりも市民の方が平和構築のためにできることはある。」という内藤氏の言葉をしっかりと受け止めていきたい。

賛助会費・寄付金報告(1)

2016年12月1日～2017年1月31日
(順不同・敬称略)

◆財団本部
寄付金

日本基督教団早稲田教会 50,000

◆関東活動センター
賛助会費

神谷 伊勢男 5,000

島田 治夫 2,500

千葉 拓司 5,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

立原 敬一 5,000

谷津 慎子 5,000

飯田 庸子 2,000

中井 博雅 5,000

次ページに続きます。

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書を読む講座I

『イエスの譬え話II』を著者と共に読む(全9回)

講師:山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時:2017年4月~2018年1月(8月除く)第2火曜 18:30~20:00 ①4月11日、②5月9日

会場:早稲田奉仕園スコットホール 参加費:1,200円/学生500円 テキスト:『イエスの譬え話II』

新教育出版社

共催:早稲田奉仕園

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時:2017年3月12日・4月9日(日) 9:00~15:00受付(1,8月を除く年10回)

於:関西セミナーハウス

年会費:5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2017年度お茶のこころと宗教のこころII

「聖書をいっしょに読みましょう」

座長:榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時:2017年4月~12月(8月除く)第1または第2木曜 13:30~16:30(全8回) ①4月6日、③5月11日

会場:関西セミナーハウス 参加費:1回1,500円 学生500円(抹茶含む) 定員:20名

財団本部 http://www.academy-nippon.com 関東活動センター http://www.academy-tokyo.com 関西セミナーハウス http://www.kansai-seminarhouse.com/ 関西セミナーハウス活動センター http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F TEL 03-3207-6198 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117 E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告(2)

◆関東活動センター寄付金

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 曾平統 (2,000), 萩原好子 (5,000), 村瀬敬子 (3,000), etc.

神学生交流プログラム寄付金

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 柳下明子 (3,000), 斎藤宏 (3,000), 吉田豊 (3,000), etc.

◆関西セミナーハウス

寄付金

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 野嶋和雄 (10,000), 森口克洋 (10,000), 武藤高司 (10,000), etc.

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 小山稔・初美 (5,000), 木原諄二 (5,000), 山岡義生 (5,000), etc.

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 白方誠彌 (10,000), 土井健司 (5,000), 日野多栄子 (3,000), etc.

寄付金

Table with 2 columns: Name and Amount. Includes donors like 橘俣子 (10,000), 宮本桂子 (5,000), 鳥井清司 (5,000), etc.

以上、感謝をもってご報告申し上げます。